

串刺しにされた街

卒業企画設計 三重大学工学部建築学科4年 飯島 誠之



地方都市の現状の課題

バイパスの整備と自動車の高価格化により、郊外に突如と現れた大型小売店。この郊外にはついでに建つ商業施設は、建設費が安く、運営もシンプルで、しかも気軽に自れることができる。ひとつの大型小売店の郊外施設を核として、周辺の小売店がそのバイパス上に集まっていく。このようにして、もう一歩サブセンターは発達した。そしてこれらの新たな集積地は、長い歴史によって築き上げられた都市に馴染みなく上乗せされた。このバイパスに展開する線状都市は、都市の境界を曖昧にし、空想的な風景をつくり出している。



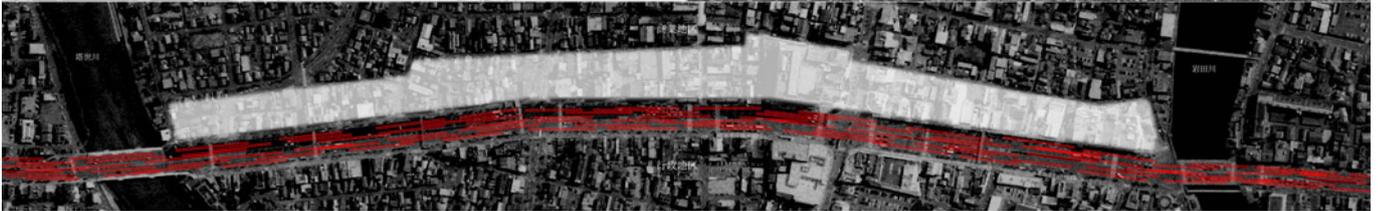
地方都市における中心部の再考

以上のような背景によって、以前まで輝き続けていた都市の中心部は衰退し、中心性は失われた。この中心部は地方都市を代表させ、その都市のアイデンティティを表現させる場にかかせないものであった。今現在、時代に取り残された都市の中心部の将来像が、様々な立場から模索されているが、実効的な回答はない。



都市の内包性

近年、都市部において、道路に展開していた店舗がひとつの大型商業施設に集約されてきている傾向がある。ひとつの建物内部で、消費者の特定のニーズに答えることができることがこの施設の特徴である。つまり、従前の街単位で作り出されるひとつのアイデンティティが、現在では建物単位へと収束しているのである。地方都市でも、郊外の大型小売店にショッピングモールが取り付き、その内部でひとまとまりの街が創出されている。このような社会の動きは、都市の内包性を押し進める危険性を孕んでいる。このような商業施設に見られる内包性は、もともとこの大衆心理の産物であるが、もっと本質的には都市空間の凝縮的単純化である。この結果、消費者、つまり私たちは、空想的な空間において、生活の一部を演じてはならなくなっている。



国道23号線が縦断する三重県

三重県では、北から南へ桑名、四日市、鈴鹿、津、松坂、伊勢と直線上に主要都市が連なっていて、主要幹線道路である国道23号線によって接続されている。これらの都市は、この23号線からセットバックする形で各自の中心市街地を形成しているが、津市においては、中心市街地がこの23号線によって串刺しにされている。

国道23号線を背骨に形成される津の中心市街地

津の中心市街地は2本の川によって挟まれている。この街において、国道23号線は構造的ヴィスタとしての役割を果たしていて、この23号線を背骨として東側に商業地区、西側に公共施設が並ぶ行政地区が取り付いている。つまりこの23号線からの見出しが、津の顔、また三重の顔となるのである。しかし、この商業地区も全国の商店街同様、郊外の大型小売店に客足をとられ、シャッター街となっている。

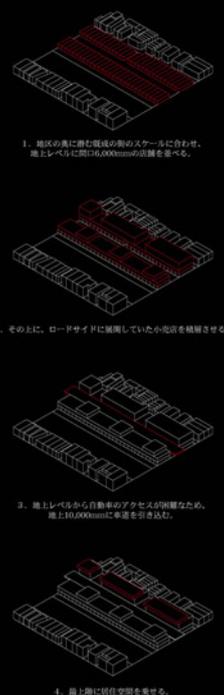


proposal :

国道23号線に向けて商業地区の輪郭を形成し、商業地区全体をひとまとまりのロードサイドショップに見立てる。

- 本計画では、この津の商業地区を対象とする。
- 1. 橋から橋まで、国道23号線に沿うように線形の商業施設を計画し、この商業地区の輪郭を形成する。
- 2. 施設の屋上部に車道を引き込むことによって、自動車のアクセスが容易に確保する。

大動脈である国道23号線から分岐した動脈は、ヒューマンな街路空間、毛細血管へと接続される。





「線状都市にヨドミを・・・」402705 飯島 誠之

